

令和2年度に実施した子ども条例に基づく施策の実施状況一覧

(1) 子どもの権利について学ぶ機会の提供等

取組名	取組概要	対象	担当課
「三重県子ども条例」推進・啓発等の実施	出前トークを実施し、「三重県子ども条例」の理念や条例に基づく取組に県民の方がより一層理解を深め、子どもの育ちへの支援を学んでいただけるように取り組んだ。	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
施設の子どもへの「子どもの権利ノート」の配付	新しく児童養護施設等に入所する子どもに対し、施設での生活がどのようなものかなどを知り、一人ひとりが守られる存在であることを知ることができるように「子どもの権利ノート」を配付した。 (令和2年度 82人)	幼児・小学生～高校生	子ども・福祉部 子育て支援課
移動人権啓発事業	商業施設を利用してパネル展示、啓発物品の配布等を実施し、子どもの権利を含めた人権尊重の思想を県民に広めた。 (実施回数：9回、参加者数：702人)	子ども、大人	環境生活部 人権センター
「非行防止・薬物乱用防止教室」の開催	少年の規範意識を向上させるため、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等を訪問し、非行防止教室や薬物乱用防止教室を開催した。(令和2年度、実施回数：延べ330回、参加者数：延べ27,900人)	幼児～高校生、大学生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
三重県立図書館 児童コーナー、ティーンズコーナー	子どもの知る権利の確保のため、児童書の新刊購入に努めるとともに、図書の閲覧、貸出、参考調査等のサービスの提供を行った。 ・児童等向け図書、雑誌購入(2,167冊) ・児童等向け図書、雑誌貸出冊数(個人貸出)(95,339冊)	子ども、大人	環境生活部 図書館
「命の大切さを学ぶ教室」の開催	教育委員会等の関係機関と連携し、中学生・高校生等を対象に、犯罪被害者等が講演者となり、子どもを亡くした親の思いや生命の大切さ等を直接生徒に語りかける「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、犯罪被害者等への配慮・協力意識の醸成や次世代を担う若者の規範意識の向上に努めた。 (開催回数：7回、受講者数：1,320人(うち、中高生：1,247人))	中学生、高校生および大学生	警察本部 警務課
「交通安全アドバイザー」の派遣	幼児・小学生等が、正しい交通ルールと交通マナーを身に付け、交通事故の当事者となることを防ぐため、「交通安全アドバイザー」を幼稚園、小学校等に派遣する出前方式の参加・体験・実践型の交通安全教育を推進した。 (令和2年度、幼児：1,181人、小学生：2,511人、保護者：314人、高齢者：273人、その他：652人) また、「自転車の交通安全教室」「横断歩道の正しい渡りかた」と題した交通安全教育動画を作成し、YouTube三重県警察公式チャンネルに掲載した。	幼児・小学生、保護者および高齢者	警察本部 交通企画課

(2) 子どもが意見表明する機会の設定等

取組名	取組概要	対象	担当課
児童相談所におけるアドボカシー	平成30年度から、児童相談所職員等を対象にアドボケイト養成研修を行い、「職員の支援が子どもの自尊感情や自信を高め、困難な課題を自分で解決できるという気持ちを持たせる」「子どもが言いたいことを言う機会を持ち、耳を傾け、子どもの権利を保障する」といったアドボカシーの原則等を学んでいる。 また、一時保護所において、アドボケイトの試行的取組を実施している。	～高校生	子ども・福祉部 子育て支援課
キッズ・モニターアンケートの実施	県の施策に子どもの意見や状況を取り入れるため、子どもを対象にインターネットを用いた電子アンケートに回答していただく「キッズ・モニター」を実施した。(実施回数：7回) (テーマ) ①障がいと手話について(子ども・福祉部) ②地産地消と食育について(農林水産部) ③新型コロナウイルス感染症にかかわることについて(教育委員会事務局) ④子どもの権利とみえこどもの城について(子ども・福祉部) ⑤これからの道路について(県土整備部) ⑥お米について(農林水産部) ⑦美術館と美術について(三重県立美術館)	小学4年生 ～高校生	子ども・福祉部 子ども・福祉総務課
ありがとうの一行詩コンクールの実施	コロナ禍であらためて認識した家族や仲間などへの感謝の気持ちを伝えることをテーマに、ありがとうの一行詩を募集し、87作品を表彰した。(応募作品数：13,307作品)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
明るい選挙啓発ポスターコンクール	選挙が明るく正しく行われるよう啓発用のポスターを募集し、県審査特選作品については中央審査(主催は(公財)明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会等で文部科学省、都道府県教育委員会の後援)へ出品した。 (参加校数：県内13市町89校、参加者数：882人)	小学生～ 高校生	選挙管理委員会
みえの地物が一番！朝食メニューコンクール	小学生(5・6年生)および中学生を対象に、子どもたち自身が地場産物を使用した朝食メニューを考え、調理するコンクールを実施した。この取組を通して、子どもたちが自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身に付けるとともに、地場産物や生産者についての理解を深めた。 (応募総数：小学生の部 934 作品、中学生の部 3,342 作品、優秀賞各部5作品)	小中学校・特別 支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 保健体育課
人権メッセージ募集	県民が、差別をなくすために真剣に取り組み、県民一人ひとりが、人権啓発の主体者であることの意識付けにつながるよう人権メッセージを募集した。(取組件数：2,671件)	子ども、 大人	環境生活部 人権センター
人権ポスター募集	県内の小中高等学校等の児童・生徒が人権について考え、表現する機会としてポスターを募集した。優秀作品により人権カレンダーの作成や巡回展示による啓発を行った。 (取組数：129校 取組数：19,808人)	子ども (小・中・高校生等)	環境生活部 人権センター
人権フォトコンテスト	「自分らしく生きる姿」「共に生きる姿」「命の大切さ」をテーマに生活の様々な場面における「人権」を感性でとらえたコンテストを開催した。募集・応募・優秀作品の展示の過程を通じて人権尊重を広く県民に啓発した。 (応募件数：180件)	子ども、 大人	環境生活部 人権センター
三重県高等学校科学オリンピック大会	高校生が学校ごとのチームで、授業での学習をベースに生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科・情報や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図った。(10月18日開催 15校 15チーム 参加人数 118名)	高校1、2 年生	教育委員会事務局 高校教育課
薬物乱用防止ポスター	薬物乱用を許さない社会づくりを推進するため、中学生、高校生から薬物乱用防止の大切さを同世代に訴えるポスターを募集し、入賞作品は県内で展示するとともに、三重県ホームページに掲載した。 (応募点数：892点)	中学生～ 高校生	医療保健部 薬務課
地球温暖化防止啓発ポスターコンクール	県民の地球温暖化防止への関心、意識を高めることを目的として、小・中学生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募者：小中学校 81校、1,663人)	小学生、 中学生	環境生活部 地球温暖化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
野生生物保護啓発ポスターコンクール	ポスター制作を通して野生生物についての保護意識を高めるとともに、県民への普及啓発を図ることを目的として、小学生～高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募数：小中学校・高校・特別支援学校 112校 1,118人)	小学生～高校生	農林水産部 みどり共生推進課
全日本中学生水の作文コンクール	8月1日の「水の日」および8月1日～7日の「水の週間」に合わせ、中学生が水について理解を深めるための取組の一環として「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。(テーマ「水について考える」) (三重県応募総数：399作品)	中学生	地域連携部 水資源・地域プロジェクト課
土砂災害防止に関する絵画・作文	土砂災害の防止と被害の軽減を図るため、国と各都道府県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、各種の活動を実施した。その活動の一環として、小中学生を対象とした絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰する取組により啓発に努めた。 (応募数：小中学校7校 13件)	小学生～中学生	県土整備部 防災砂防課
河川・海岸愛護ポスターの募集	川と海の役割や大切さについて理解と関心を深めるため、国と各都道府県では、毎年7月を「河川・海岸愛護月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小中学生を対象にポスターを募集し、優秀な作品には知事賞・議長賞等の授与を行った。 (応募数：小中学校45校 316件)	小学生～中学生	県土整備部 河川課
国土と交通に関する図画コンクール	人びとの生き生きした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境等を実現するためのハード・ソフトの基盤形成への理解を深めてもらう活動として、国の取組に呼応し、小学生を対象に図画を募集し優秀な作品を表彰することにより啓発に努めた。 なお、その中から佳作1点を受賞した。 (応募数：県内10校 38件)	小学生	県土整備部 県土整備総務課
交通安全メッセージ運動	子どもが保護者等の身近な人と交通安全に関するメッセージ交換をすることで、子どもの交通安全意識を高め、家庭からの交通安全意識の向上を図った。 (1,656組参加)	子ども、大人(主に保護者)	環境生活部 くらし・交通安全課
ビブリオバトル推進事業	ビブリオバトル(書評合戦)を活用した読書活動の推進(校内行事等への導入をはじめとした普及活動、ビブリオバトルの開催)により、中学生・高校生の思考力・判断力・表現力等の育成を図った。(中学生・高校生ビブリオバトル大会及び普及活動参加校数：31校)(県大会中止を含む)	中学生 高校生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

(3) 子どもが主体的に取り組むさまざまな活動の支援

取組名	取組概要	対象	担当課
人権まなびの発表会	例年、それぞれの学校で取り組んだ人権学習や人権に関する生徒の自主的な活動の成果を発表し、交流する人権まなびの発表会を、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から、発表校の取組をスライドや動画にまとめたDVDを作成し、希望する学校の生徒が視聴し、校内で意見交換する形で実施した。9校が取組を発表し、39校(発表校を含む)の生徒525人(昨年度23人)が視聴を行った。 ・視聴期間：11月2日～12月25日 ・視聴者数：611人(生徒525人 教職員等86人)	高等学校・特別支援学校高等部の生徒および教育関係者	教育委員会事務局 人権教育課
高校生フェスティバル	「三重県立高等学校産業教育フェア」「みえ高文祭」「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」「高校紹介ひろば」を実施し、高校生が日頃の学習や文化活動等の成果を情報発信した。 ・実施日：10月23～25日 ・開催場所：三重県総合文化センター、イオン津ショッピングセンター ・参加生徒延べ約1,400人、一般来場者延べ約2,000人	子ども、大人	教育委員会事務局 高校教育課
みえこどもの城の運営	みえこどもの城において、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、児童に健全な遊びを提供した。(運営については、指定管理にて民間団体に委託している。) ・プレイランドの遊具やカプラ(積み木)の設置 ・芸術分野や科学分野の工作メニューや紹介動画の提供 ・クライミングウォールの実施 ・各種イベントの実施	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
発明くふう展	子どもたちの発明・発見への関心をいっそう高め、ものづくりの楽しさや未来の科学への夢を喚起し、子どもたちの「科学の心」を育成することを目的として、子どもたちの発明に関する作品167点(工作62点、絵画105点)を展示する「発明くふう展」を開催した。 ・開催日：10月3日(土)、4日(日) ・開催場所：津リージョンプラザ3階展示室 ・参加人数：327人	幼児～高校生	雇用経済部 ものづくり産業振興課
三重県環境学習情報センター	社会見学の受入れ、各種環境講座の実施等を通じて、環境保全に関する気づきや実践への機会を提供した。 ・見学視察、体験教室(学校関係80回 5,066人、一般46回 167人) ・夏休みこども環境講座(4回 50人参加) ・秋のこども環境講座(3回 30人参加) ・冬休みこども環境講座(1回 21人参加) 等 (環境教育参加者数：13,750人)	子ども、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
キッズISO14000プログラム	小学校、企業、行政が連携してキッズISO14000プログラムに取り組むことにより、家庭を巻き込んだ環境保全活動を推進した。 (参加児童数：小学校2校 90人)	小学生、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
花育の取組(フラワーブラボーコンクール)	中日新聞社と7県1市が主催となり、学校環境の美化と豊かな情操教育、花による地域の快適な環境作りなどに役立てることを目的に、小中学校等を対象とした学校花壇コンクールを開催した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校花壇コンクールの審査・表彰は中止とし、その代替として、参加校が中日新聞社に花壇の作成報告を行い、作成記念の参加証や額縁付き写真パネルが贈呈された。(FBC参加校数：61校 うち写真パネル贈呈校小学校9校、中学校1校)	小・中学生	農林水産部 農産園芸課 教育委員会事務局 小中学校教育課
鈴鹿青少年センター主催事業「レッツ親子アウトドア体験」	夏休みを利用した日帰りの野外炊飯や創作活動を行い、気軽に参加して親子で協力する体験を実施した。 (実施日：8月1日 参加者数：28人)	小学1年生～3年生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「わくわくファミリーキャンプ」	小中学生とその保護者が、親子で行う創作活動や野外炊飯等に挑戦して、家族で協力して目的を達成する体験を実施した。 (実施日：11月14日～15日 参加者数：30人)	小中学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
鈴鹿青少年センター主催事業 「ウィンター親子dayキャンプ」	幼稚園児から小学校3年生とその保護者を対象に、野外炊飯、宝探しラリーに挑戦して、家族で協力して目的を達成する体験を実施した。 (実施日：12月5日 参加者数：30人)	保育園児・幼稚園児(年中・年長)～小学3年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業 「おもしろ自然科学教室」	観察や実験を通して、自然や科学の面白さや不思議を経験する講座を実施した。 (実施日：1月30日(葉っぱのふしぎ発見)、2月7日(電気パンを作って電流の働きを学ぼう)、2月14日(光センサーとトランジスターで電子工作) 参加者数：69人)	小学4年生～6年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「親子deキャンプ(秋編)」	熊野少年自然の家をベースに大自然の中での親子で行うキャンプにより家族で野外活動をする楽しさを味わった。 (実施日：10月3日～4日 場所：熊野市金山町 熊野少年自然の家 参加者数：延べ21人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「ファミリー農園」	大自然の中で、親子で春に野菜の苗を植え、秋に収穫し、その場で調理し食べるまで行い、収穫の喜びを味わった。 (実施日：6月7日、11月1日 場所：少年自然の家野外炊飯設備、参加者数：延べ31人)	小学生～大人まで (小1、2は保護者同伴であること)	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「身の回りの科学講座」	空気など自然の中にあるものの力を引き出す科学の楽しさを学んだ。 (実施日：7月11日、10月24日、1月23日 参加者数：延べ63人)	小学3～6年生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「化石発掘体験会」	親子で発掘体験を行い出土した化石についての学習を行うことで、体験を通し自然科学を楽しく学んだ。 (実施日11月28日 2月27日 場所：尾鷲市行野浦海岸 参加者数：延べ46人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「溪流で遊ぼう」	熊野市の大又川で親子でリバーカヤックの体験や、アユとアマゴのつかみ取りを体験し、昼食でアユ等のバーベキュー、午後からは釣りも行い自然体験を楽しく学んだ。 (実施日：8月23日、場所：熊野市五郷町大又川、参加者数：30人)	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
森林環境教育・木育の推進	森林の持つさまざまな機能や木材利用への理解を深めるとともに森林教育について知っていただくため、学校等における出前授業の実施や、木や森林を活用した体験を通して子どもが木や森林について楽しみながら学べるイベント「みえ子ども森の学びサミット」「森の学校」の企画・開催、木製玩具の展示・体験イベント「ミエトイ・キャラバン」の開催、森林をフィールドとして子どもたちが主体的に活動するプログラム「自然環境キャンプ」の実施、森林教育の指導者養成等に取り組んだ。 (出前授業16回実施、「みえ子ども森の学びサミット」開催予定日：12月5日、場所：みえこどもの城(新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止)、「森の学校」22回開催、「ミエトイ・キャラバン」6回開催、「自然環境キャンプ」5回実施、指導者養成講座10回実施)	子ども(小学生が主)、大人	農林水産部 森林・林業経営課

(4) 子どもの育ちを支える人材育成、環境整備

取組名	取組概要	対象	担当課
預かり保育の推進	私立幼稚園において、地域の実態や保護者のニーズに応じ、正規の教育時間開始前や終了後、および休業日に教育活動を実施するための人件費に対し助成を行った。 (助成私立幼稚園数：13園 令和2年度交付決定数)	学校法人	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後子ども教室の推進	放課後児童対策の一つとして、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、活動場所を設け地域の方々の参画を得て文化スポーツ学習活動などの取組を支援し、子どもが地域社会の中で健やかに育まれる居場所を確保した。 (実施地域：19市町、教室数：74教室 放課後子ども総合プラン実施状況調査より)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後児童健全育成事業の推進	放課後児童対策事業費補助金を支給する等、市町が行う放課後児童クラブ施策を支援した。 (実施地域：29市町、クラブ数：432クラブ 放課後子ども総合プラン実施状況調査より)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
保育士に対する研修の実施	新任保育士の資質の向上や就業継続支援を図るための研修、人権問題についての正しい知識を習得するための研修等を実施した。 (新任保育士就業継続研修：92人、人権保育専門講座：6市町、8講座)	保育士等	子ども・福祉部 少子化対策課
特別保育の促進	市町が実施する延長保育(私立165か所)(R2.3.31時点)、病児・病後児保育(16か所)(R2.4.1時点)など多様な保育サービスを支援した。	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
幼稚園教育研究協議会の開催	教員等の指導力を高め、本県における幼稚園教育の振興・充実を図るため、県内の国公私立幼稚園、小学校、市町教育委員会等関係者を対象に、幼稚園の教育課程の編成及び実施や保育技術に関する専門的な講義、研究協議を行った。令和2年度は、感染拡大防止の観点からオンライン開催とした。 (参加者数：154人)	幼稚園教諭等	教育委員会事務局 小中学校教育課
不登校対策事業	学校からの情報提供により、不登校児童生徒の実態を把握・分析するとともに、長期にわたり不登校の状態にある児童生徒を対象に訪問型支援を行い、一人ひとりの状況に応じた支援を実施した。また、小中学校が連携しながら児童生徒が主体となった授業や行事を実施し、仲間づくりや居場所づくりに取り組む「魅力ある学校づくり」の研究を亀山市内全中学校区で進め、その取組をリーフレットにまとめ県内に広く普及した。加えて、学校外での多様な学びを支援するため、各市町が所管する教育支援センターの指導員を対象とした事例検討会や、フリースクール等が行う不登校児童生徒の社会的自立に向けた体験学習等への支援を行った。	児童生徒 教職員 フリースクール 教育支援センター	教育委員会事務局 生徒指導課
スクールカウンセラー等活用事業	いじめや暴力行為等の問題行動、不登校や貧困など多様な課題に対応するため、スクールカウンセラー(SC)を各公立中学校区と高等学校に配置した。また、学校からの要請に応じてスクールソーシャルワーカー(SSW)を派遣するとともに、SSWが県立高校と中学校区を巡回し、関係機関との連携のもと、課題の解決に向けた支援を進めた。 【SCの配置校：全151中学校区(小学校312校、中学校150校、義務教育学校1校、高等学校56校)】 【SSWの配置：13人を県教育委員会に配置】	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
みえの親スマイルワークの活用	教育委員会や三重県PTA安全互助会と連携し、親の役割や自身の成長について、気づき、学び合う機会を提供する参加型のプログラムである「みえの親スマイルワーク」を活用し、保健センターや子育て支援センター、PTA等で、子育て中の親を対象にワークシートのテーマに基づき、子育ての思いや悩み、不安などを語り合い、共感するなどの機会を提供した。(連携実施回数3回、86人参加)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て家庭応援クーポン	地域の商店や企業の協賛による、18歳未満の子育て世帯及び妊娠中の世帯に対して割引やサービスの提供を働きかけた。(協賛企業数：2,414店舗 令和3年3月末現在)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進	社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するために、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画し活動している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大および活動促進を図った。 (会員数：1,584 令和3年3月末現在)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
子どもの育ち支援活動拠点の設置・運営	子どもの育ちを応援する「みえの子ども応援プロジェクト」の活動拠点として、商業施設に「よっかいちステーション」を設置し、毎週火曜日と第4土、日曜日に、企業や団体等がボランティアとして、おもちゃの病院、太鼓体験、工作など、親子がふれあいながら楽しむ機会を提供した。(来場者数10,490人)	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
県生涯学習センター講座	市町行政や関連施設等と連携しながら、社会の要請に対応できる地域指導者の人材育成講座等を実施した。テーマは市町のニーズに基づき決定した。 子どもの読書活動の推進をテーマにした講座を実施 会場 志摩市立図書館 9月30日 13人、10月7日 13人	大人(読書ボランティア等)	環境生活部 文化振興課
みえ子ども医療ダイヤル(#8000)	子どもの急な病気や事故、薬に関する心配について、医療関係の専門職員が電話相談に応じた。 ・相談時間: 毎日19時30分～翌朝8時00分 ・相談件数: 7,075件	大人	医療保健部 医療政策課
「女性が働きやすい医療機関」認証制度	子育て時の当直免除など女性の医療従事者が働きやすい環境づくりの促進を目的に、女性が働きやすい勤務環境の改善に積極的に取り組んでいる医療機関を認証するとともに、広く周知を図った。 (令和2年度認証医療機関数2医療機関)	医療機関	医療保健部 医療介護人材課
いじめ電話相談	子ども、保護者等を対象にいじめ電話相談を実施した。 (相談時間: 毎日24時間(365日)) ・いじめ電話相談件数 101件	子ども 保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教育相談	子ども、保護者、教職員を対象にプレイセラピーやカウンセリング等の面接相談、電話相談を実施した。 (相談時間: 年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時) ・電話相談件数 3,533件 ・面接相談件数 5,674件	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
体罰に関する電話相談	子ども、保護者等を対象に体罰に関する電話相談を実施した。 (相談時間: 年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時) ・体罰に関する電話相談件数 19件	子ども 保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
子ども専用電話相談	子どもからの相談に対応する窓口として、子ども専用電話相談「子どもほっとダイヤル」を運営し、悩みを抱えた子どもの声を受け止め、子どもとともに状況や気持ちを整理しながら継続して相談を受け、子どもが自らの力を回復して解決していくことができるよう手助けを行った。虐待やいじめなど子ども自身の力だけでは解決できないような場合には、児童相談所や教育委員会等関係機関と連携して対応した。 ・フリーダイヤル ・相談時間: 年末年始を除く毎日13時～21時 ・相談件数: 1,256件(令和2年4月1日～令和3年3月31日)	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
妊娠レスキューダイヤルの設置	若年層の望まない妊娠で周囲に相談できない等子どもたちの悩みに対する電話相談窓口を運営するとともに、医療・保健・教育・福祉等関係機関が連携し早期からサポートすることで児童虐待の未然防止に努めた。 また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり増加した若年層の予期しない妊娠に関する相談に対応するため、SNS相談窓口を開設した。 ・相談時間: 毎週 月・水 15:00～18:00、土 9:00～12:00 (年末年始、祝日を除く) LINE相談窓口については令和2年6月1日開設 ・相談件数: 電話165件(R2年度)、LINE146件(R2年度)	若年層 (10歳代)	子ども・福祉部 子育て支援課
思春期保健指導セミナー	中高生の性や望まない妊娠等、思春期の子どもたちや家族が抱える性にまつわる問題を関係者が共通理解し、各々の機関で実践に活かす手法を学ぶ目的でセミナーを開催した。 (開催日: 令和3年2月11日、開催形式: オンラインによるWebセミナー 参加者数: 484人)	大人(医療関係者・教育関係者、保健関係者等)	子ども・福祉部 子育て支援課
給食施設巡回指導	給食を実施している保育所等児童福祉施設、私立幼稚園及び学校に栄養指導員が巡回し、管理栄養士、栄養士の配置及び適切な栄養管理等の実施について指導助言を行うとともに、食育の視点も捉えた指導を実施した。 (巡回指導施設数: 17施設)	施設管理者および給食従事者	医療保健部 健康推進課

取組名	取組概要	対象	担当課
若年層の自殺対策推進体制構築事業	子どもの自己肯定感を高めるとともに、ストレスとの付き合い方や問題に遭遇した時、周囲に助けを求めることが大切であることを伝え、また、相談しやすい環境づくりや精神疾患への早期支援を地域の実情に応じて取り組んだ。 ・専門相談窓口の設置 新規相談件数 171件 ・アウトリーチ型支援 36件 ・教職員等を対象とした研修：3回 61名受講 ・生徒を対象とした自殺予防の授業：8校 19回 1,767名受講 ・保健医療・教育関係者等を対象とした研修：2回 20名受講 ・関係機関による支援ネットワーク会議への参加助言等：7回	主に中高生およびその保護者・学校関係者	医療保健部 健康推進課
人権に関わる相談員スキルアップ講座等	人権の視点での県内各機関の相談員等の資質向上を図るため、人権に関わる相談員等スキルアップ講座を開催した。 ・講座「子どもの虐待」「多文化共生社会の実現に向けて～次世代のために私たちができる事～」「一人一人が生きやすい社会のために～性のあり方について考える～」3講座 (取組数：3講座、参加者数：188人)	大人（人権に関わる相談員）	環境生活部 人権センター
SNSを活用した相談	いじめをはじめとするさまざまな悩みを抱える子どもたちが、安心して学校生活を送ることができるよう、多言語で相談できるSNSを活用した相談を実施した。 ・開設期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日 ・相談時間：平日午後5時から午後10時まで ・対象者：県内全ての中学生、高校生 ・相談件数：786件	子ども	教育委員会事務局 研修企画・支援課
子どもの心サポート事業	思春期の子どもたちの悩みや不安に対する理解と適切な支援が行えるよう、教育相談に関する研修会を実施した。教職員の資質向上を図るとともに、学校では解決が困難なケースを中心に、カウンセリングや心理療法等の面接相談を実施した。 ・思春期の子どもの心を理解する研修講座数 3講座 ・思春期の子どもに係る面接相談件数 2,415件 教育相談に関する研修会を実施し、児童生徒の心の問題に対する理解と適切な支援が行えるよう、教職員の資質向上を図った。また、学校における教育相談体制の確立に向けて、中核的リーダーを育成する研修を実施した。 ・教育相談に関する研修講座数 15講座 ・延べ受講者数 384人	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
生活困窮家庭の子ども学習支援事業	生活困窮者自立支援法に基づき、県所管地域（多気町を除く郡部）の生活困窮家庭（生活保護受給世帯を含む）の中学生を対象に、学習習慣の確立、志望校への進学支援などの学習支援を行った。また、高校生をはじめ、高校を中退した人、中学校卒業後進学していない人（「高校生世代」という。）を対象に、進学、就労に向けた進路選択や再就学等の相談支援等に取り組んだ。 ・支援者数：高校生世代3人 中学生16人 (うち中学3年生 10人のうち9人が高校進学)	中学生 高校生世代	子ども・福祉部 地域福祉課
日本語指導の充実及びJSLカリキュラムの実践研究の推進	外国人生徒支援専門員を活用し、外国人生徒が社会的自立を果たし、社会の一員として活躍できるよう、課外授業等による学習指導や進路相談等を実施した。また、日本語指導が必要な外国人生徒等の学習指導に係る情報について、調査票を活用して中学校から高等学校へ必要な情報の引継ぎを行う取組を進めた。 ・外国人生徒支援専門員の配置 7人（うち2人はコロナ対応） ・調査票を活用した中学校から高等学校への情報の引継ぎ 7市で実施	高校生、 教員	教育委員会事務局 高校教育課
多文化共生社会のための外国人児童生徒教育推進事業	日本語指導が必要な外国人児童生徒が、将来、社会の一員として自ら能力を発揮し活躍できるよう、外国人児童生徒の在籍が多い拠点校等のノウハウを生かした受入体制整備を進めるとともに、外国人児童生徒巡回相談員（令和元年度の13名から1名増員し14名）の派遣等による日本語指導、学校生活への適応指導の充実、教科指導型日本語指導（JSLカリキュラム）の実践事例の普及を図った。	小中学生、 教員	教育委員会事務局 小中学校教育課

取組名	取組概要	対象	担当課
教職員研修	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善による授業力向上や教育課題への対応力等の専門性について、職種や経験年数に応じた研修を実施した。また、教職経験の異なる教員の相互研鑽による授業実践研修等を実施した。学校改善や授業研究を推進できる人材を育成する研修、日本語指導を地域や学校において推進できる人材を育成する研修を実施し、中核的リーダーを育成した。さらに、「1人1台端末活用」等に対応できる専門性の向上に向けた研修を実施した。</p> <p>なお、研修の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、集合研修とWeb会議システムを活用した双方向型の研修、動画配信等を活用したオンデマンド型の研修、研修資料提供による研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ実施講座数 335講座 (研修形態別内訳) 集合研修 37講座 遠隔研修 285講座 資料提供 13講座 ・延べ受講者数 42,028人 	教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課 研修推進課
ワークシート作成(全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシート(3点セット)活用支援事業)	<p>授業改善の充実を図るため、学習指導要領の趣旨や内容に基づき、みえの子どもたちのつまずきに対応したワークシート集を県内小中学校に冊子で提供した。<学-Viva!!セットとして年3回(6月:通常の年の4月から7月までの学習内容のうち、特に積み上げていくことが求められる基本的な内容、10月:昨年度3月から本年度10月までの各単元における基本問題、2月:国語、算数・数学の学習内容において時につまずきが見られる基本問題)></p> <p>新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業より、在宅で学習を行っている子どもたちを支援するため、基本問題で構成した学習プリント(304シート)を小学校1年生から中学校3年生を対象に、みえの学力向上県民運動WEBページで提供し、5月1日から、ポータルサイト「みえびい学びの応援サイト」を開設した。</p> <p>みえスタディ・チェックを実施し、過去の状況と比較検証できるよう、これまでに出题した問題を活用し、同一、同趣旨の問題で作成した。</p>	小中学校 教職員	教育委員会事務局 学力向上推進PT
みえ子どもの元気アップ体力向上推進事業	<p>子どもたちが運動の楽しさや喜びを知り、運動することが好きになるよう、研修会等をとおして授業の工夫や改善を図った。さらに、学校・家庭・地域が主体となって子どもたちが運動する機会を増やすよう取り組むとともに、生活習慣の改善を総合的に推進し、体力向上に向けた取組を継続的に進めた。なお、小学校教員対象の実技研修会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就学前教員対象研修会 11月 23名参加 ○小学校教員対象研修会(8月中止) ○中・高等学校研修会 12月 4回合わせて142名参加 	就学前・ 小学校・ 中学校・ 高等学校 の教員お よび児童 生徒、幼 児と保護 者、市町 等教育委 員会等	教育委員会事務局 保健体育課
元気アップブロック別協議会	<p>令和2年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の中止に伴い、県独自に実施した、50m走を中心とした体力調査の結果に基づき改善した元気アップシートの内容について、市町教育委員会との共有を行った。また、各小中学校が学習評価を含む教育課程の編成を円滑に進めることで、児童生徒の実態に応じた目標を設定し、体力向上の取組改善や「1学校1運動」が効果的に実践されるようブロック別協議会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月25日、26日計500名参加 	小学校・ 中学校・ 高等学校 の教員	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動サポーター派遣事業	<p>中・高等学校の部活動に、地域のスポーツ指導者を外部指導者として派遣し、部活動の取組を充実させた。</p> <p>(中学校5校5人、県立高等学校42校に対し45人を派遣)</p>	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導員配置促進事業	<p>中学校(文化部を含む)・高等学校の運動部活動に、教育に対する理解及び専門的指導力を備えた地域の指導者を、運動部活動指導員として配置することで、顧問教員の負担軽減や運動部活動の充実・活性化を図った。</p> <p>(中学校28校に対し43人配置、県立高等学校5校5人を配置)</p>	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課
武道等指導充実・資質向上支援事業	<p>中学校における武道・ダンスの必修化に伴う課題を解決するため、安全に配慮した指導ができるよう、専門性を有する地域の武道・ダンス指導者を外部指導者として中学校に派遣し、保健体育科における武道・ダンス授業の充実を図った。</p> <p>(中学校15校に対し14人(実人数))</p>	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課

取組名	取組概要	対象	担当課
子ども読書活動推進会議	「第四次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく県の取組や課題について、各委員の専門的な知識や実践をもとに読書活動推進のための幅広い意見を聴取するとともに、県の推進計画の進捗状況の定期的な管理と新たな推進施策について提案・検討のための会議を開催した。(2回)	三重県子ども読書活動推進会議委員	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座	学校支援地域本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等を対象に地域が学校と連携・協働して地域を創生する「地域・学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図るため養成講座を実施した。(3年間で9回計画：本年3年次、8月5日、10月7日、2月15日：延べ参加者数207名)	学校支援地域本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
少年相談110番	少年や保護者等から家庭問題、交友問題、学校問題、犯罪被害等の悩みや困り事の相談に応じ、必要な指導・助言を行った。 ・フリーダイヤル ・相談時間：祝祭日、年末年始を除く月から金曜日9時から17時 (令和2年度、相談件数：18件)	子ども、保護者、教職員等	警察本部 少年課
「三重県版コネクションズ」による非行少年の立ち直り支援等	家庭、学校、交友等の周囲の環境や自身に問題を抱えた少年に対し、少年警察協助手、大学生ボランティア等の少年警察ボランティアや関係機関・団体等と連携し、農業体験や社会奉仕体験活動等の立ち直り支援に取り組んだ。 (平成23年3月から令和3年3月末までの間、支援対象少年：延べ163人、支援回数：延べ2,994回)	非行少年被害少年	警察本部 少年課
インターネット上の違法・有害情報から少年を守る対策	インターネット利用に起因する児童の犯罪被害を防止するため、携帯電話販売店に対し、スマートフォン等販売時に使用者が子どもである場合には保護者に対するフィルタリングの説明・推奨等を徹底するよう要請した。 (令和2年度、携帯電話販売店：延べ8店舗) 非行防止教室等を通じ、児童・生徒、保護者等に対してインターネット利用に潜む危険性やフィルタリングの必要性、家庭でのルールづくり等の啓発を実施した。 (令和2年度、インターネットに係る非行防止教室実施回数：延べ181回、参加者数：延べ16,919人)	携帯電話事業者 小学生～高校生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
学校薬剤師による薬物乱用防止教室「くすりの正しい使い方教室」	覚醒剤などの違法薬物の乱用だけでなく、医薬品を医療目的から逸脱した用量や用法などの医療目的以外で使用することも薬物乱用であるため、一般用医薬品などのくすりの服用方法や副作用などくすりの正しい使い方について、学校薬剤師が薬物乱用防止教育の一環として薬物乱用防止教室を実施した。 (実施校数：126校)	小学生(高学年)～高校生	医療保健部 薬務課
薬物乱用防止教育認定講師等による薬物乱用防止教室「ダメ。ゼッタイ教室」	ライオンズクラブ国際協会334-B地区と公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが共同で認定した薬物乱用防止教育認定講師等が実施した。 啓発用ビデオやCD-ROMを活用した薬物乱用防止教育と地域のおじさんやおばさんとして、人生の豊富な経験を生かし「語り部」として、生き方「ライフスキル」を青少年に伝えた。 (実施校数：91校)	小学生～高校生	医療保健部 薬務課
インターネットの適正利用の推進	児童生徒に関わるインターネット上の問題ある書き込みを検索するネットパトロールについて、例年実施している年3回(平日15日間を3回)に加え、新型コロナウイルス感染症に係る不適切な書き込み等の検索を、平日の毎日実施した。さらに、ネットパトロールでは検知が難しい、SNSなどでの閉ざされたやりとりにおいて、不適切な書き込みを発見した場合に、県民の方が、その内容を投稿できるアプリ「ネットみえ〜る」を作成し、運用した。把握した書き込みは学校や市町教育委員会、警察等の関係機関と連携して対応した。	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
青少年健全育成協力店運動	「三重県青少年健全育成条例」に基づき、関係機関と連携して子どもを有害環境から保護する取組を進めるとともに、立入調査を実施した。 (子どもの利用の多い店舗のうち青少年健全育成協力店の割合：99.5%(令和3年3月末現在))	大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
子どもの自然体験機会創出事業	自然体験事業者による新しい生活様式に即した子ども向け教育・体験プログラムの造成を支援しました。(34事業者)	農山漁村地域の大人	農林水産部 農山漁村づくり課
子ども農山漁村ふるさと体験推進事業	農山漁村でのふるさと体験活動を通じて、小学生～大学生に学ぶ意欲や自立心を育み、その力強い成長を支えるため、受け入れ地域の体制整備や体験指導者の育成を行った。 (受入地域16地区)	農山漁村地域の大人	農林水産部 農山漁村づくり課
防犯ボランティア団体等との連携による子ども見守り活動等の推進	「防犯ボランティア団体物品支援事業」により、防犯ボランティア団体に対して防犯活動用物品の配布等の支援を行った。また、政府において策定された「登下校防犯プラン」に基づき、事業所等が通学路等において、平素の活動を通じて子どもの見守りを行う「ながら見守り」の実施を働き掛けたほか、三重県警察認定「子ども安全・安心の店」の拡大など、子どもの安全を確保する活動の活性化を図った。 (令和2年度、防犯ボランティア団体物品支援事業対象団体数：8団体、子ども安全・安心の店認定数：1,003事業所)	防犯ボランティア団体のほか、ボランティア活動に従事する事業所等	警察本部 生活安全企画課
働きやすい職場づくり事業	誰もが働きやすい職場づくりを目的に、残業時間の削減や休暇の取得促進、育児や介護をしながら働き続けられる職場づくりなどに積極的に取り組む企業等を登録するとともに、特に優れた実績を有する企業等を表彰し、併せて優れた取組事例を広く紹介した。 (R2年度登録数：57社 表彰：4社、表彰式：令和3年3月4日)	企業等	雇用経済部 雇用対策課
働き方改革取組拡散事業	働き方を見直し、企業におけるワーク・ライフ・バランスを促進するため、セミナーの開催や優良事例の紹介などによる普及・啓発を行った。 【セミナー等の開催】 ○働き方改革セミナー 令和2年10月6日(オンライン開催)71名参加 ○働き方改革取組中間成果共有会 令和2年12月15日(オンライン開催)9社参加 ○取組成果共有会及びセミナー 令和3年2月18日(オンライン及び会場開催)64名参加 ※働き方改革アドバイザー派遣企業の取組とセミナーの内容を三重県のホームページ「インターネット放送局」で配信	企業等	雇用経済部 雇用対策課
交通安全指導者講習会	小学校、中学校、高等学校の教員を対象に、児童・生徒に対する自転車の乗り方等の交通安全指導を行う指導者講習会を実施した。 (開催日：令和2年10月6日、10月13日 参加者数：29人)	大人(教員)	環境生活部 くらし・交通安全課